

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 45 回 LLW 処分安全評価分科会 議事録

1. 日時 2023 年 1 月 20 日(金) 13 時 00 分～15 時 20 分

2. 会議形態 Web 会議 (Webex)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 佐々木 (主査), 山本 (副主査), 竹内 (幹事), 大浦, 小澤, 島田,
菅谷, 杉山, 関口, 鈴木 (龍), 中居, 中瀬, 宮本, 村松, 山岡 (15 名)
(代理出席委員) 天澤 (坂井委員代理) (1 名)
(出席常時参加者) 中林 (1 名)
(欠席委員) 石田, 坂井, 鈴木 (健) (3 名)
(欠席常時参加者) 大石 (1 名)
(傍聴者) (0 名)

4. 配付資料

F16SC45-1 議事次第
F16SC45-2 第 44 回 LLW 処分安全評価分科会議事録 (案)
F16SC45-3 標準委員会決議投票コメント対応案
F16SC45-4 低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—: 20XX (案)
F16SC45-5 転載許諾リスト

<参考資料>

参考資料 1 LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール

5. 議事

a) 出席者/資料確認

分科会事務局から, 委員総数 18 名中, 16 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨報告があり, 引き続き配布資料の確認が行われた。

b) 前回 (第 44 回) 議事録確認

分科会事務局から, 前回議事録である F16SC45-2 については既にメールで各委員に配布しているため, 本日中にコメントがなければ学会に送付するとの説明があった。

c) LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール

分科会事務局より, 参考資料 1 を用いて LLW 処分安全評価分科会関連スケジュールの説明が行われた。前回分科会 (10/31) 後, 第 92 回専門部会 (11/9) において, 前回専門部会決議投票の結

果及び頂いたコメントへの対応報告が行われ、対応において了承された。続いて第 90 回標準委員会（12/7）本報告が行われ、決議投票に移行することが決議された。その後、12/9～1/13 間で専門部会決議投票が行われ、委員 25 名中 24 票の投票（全て賛成）で可決された。そのうち 1 名委員については当初意見付き保留であったが、説明と対応案提示により賛成へ転じた。また、1 名の委員よりコメントを頂いた。今後は第 93 回専門部会（2/1）において上記の対応案の説明と了承、第 91 回標準委員会（3/1）においても対応案の説明と了承を頂き、公衆審査へ移行予定である。上記に並行して、公衆審査までの完了を目指し転載許諾申請を実施している。また、標準案の誤字脱字チェックも各委員に依頼予定である。

上記とは別に専門部会幹事より入手したサイクル専門部会 5 年計画案（2023 年度）における本分科会の計画案を説明した。来年度下期より 2.5 年間のスケジュールで浅地中処分安全評価標準改定がスケジュールリングされている。

コメントは以下の通り。

- ・浅地中処分安全評価標準改定スケジュールは分科会等でオーソライズされたものか。
- 電事連による案で、分科会でオーソライズされたものではない。

d) 専門部会コメント対応

中居委員から、標準委員会決議投票でのコメントと対応をまとめた F16SC45-3 及び、コメント対応を行った標準案の F16SC45-4 を用いてコメント対応の説明が行われた。また、転載許諾に関する説明が F16SC45-5 を用いて行われた。

主な質疑を以下に示す。No.は F16SC45-3 中のコメント No.に対応する。

- ・No.1：F16SC45-4 の 4.1 で修正（削除）されていない部分がある。
- 対応忘れである。他も確認し対応する。
- ・No.1：F16SC45-3 の説明は標準には記載しないのか。
- そのものは記載しない。標準本体の修正は軽微であるが、解説についてはかなり修正している。
- ・今回の修正は編集上の範囲か。
- そう考えている。
- 対応表の備考欄にその旨を記載した方が良い。
- 拝承。

e) 専門部会で上記資料の報告を行う件についての決議

上記のコメントを反映した資料を専門部会で報告することについて WEB 上での決議の結果、出席委員 16 名の全員賛成で決議された。

f) 転載許諾

中居委員から、転載許諾に関する説明が F16SC45-5 を用いて行われた。

主な質疑を以下に示す。

- ・附属書 P 関係の図表の転載許諾をどうするか。

→表 P.1、図 P.8 は新たに作成したものであるため不要。図 P.2、図 P.5 は英語の論文記載のものを一部変更して和訳したものである。

→対応を事務局に確認する。

- ・著作権法では数値のデータは基本的に著作物でない。

→ICRP の表そのままは転載許諾対象となると事務局から指摘があった。

→その場合、ICRP 記載の数値にさらに出典があった場合には、その元にも転載許諾が必要になることとなり、際限がなくなるのではないか。

- ・附属書 I 等の数式に転載許諾は必要か。

→基本的には不要。

- ・不必要な申請は相手にも負担を掛けるため、なるべく減らすべきである。その場合でも出典の明記は必要。

- ・附属書 H の OECD/NEA は公開されているが、文献の最初に問い合わせ先があるので転載許諾は必要と考えられる

- ・専門部会へは F16SC45-5 の様な資料を用いた説明しない。

g) 専門部会対応

事務局から専門部会議事に関する説明が行われた。上記で決議された資料を用いて専門部会で説明を行う予定である。

h) 誤字脱字チェック

事務局から標準案の誤字脱字チェックに依頼があり、実施方法に関する議論を行った。

主な質疑を以下に示す。

- ・メ切は 2 月 20 日を予定している。
- ・他の分科会では委員に担当部分を割り振り実施する予定。

→本分科会でも同様に実施したい。

- ・本体+17 附属書+解説でほぼ委員数と同じだが、各委員で 1 つ割り振るか。

→各附属書は長さが異なるのと、できれば同じ部分を 2 名でチェックしたいので、なるべく各委員の担当頁数が同程度となる様に調整したい。

→各委員の割り振りは事務局に任せる。

- ・チェックは誤字脱字だけで良いか？内容のチェックは？

→基本的に不要だが、引用文献番号が明らかにおかしい等、分かるものがあれば指摘して頂きたい。

- ・引用部分については、基本的に元文献通りにしているため標準ガイドラインと異なる記載になっている部分もあるので注意願う。

- ・誤記等が見つかった際の報告用のシートも配布して欲しい。

- ・本日のコメントを受けて修正した専門部会向け標準案を 23 日に各委員に送付するので、それをチェック対象としてほしい。

i) 次回分科会等

次回分科会は、4月19日（水）13：30～15：30を候補とする。

以 上